

年20万匹輸入 在来種を圧倒

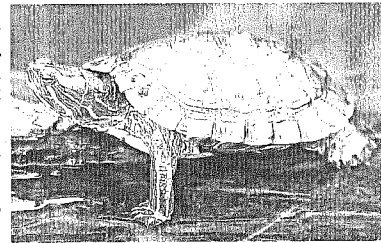
外来「捨てガメ」大繁殖



「ミドリガメ引き取ります 捨てたらアカン」と書かれたのぼりを立て、カメポストの取り組みをアピールする職員ら（兵庫県明石市で）＝明石市提供

国内の川や池で、北米原産のミドリガメ（ミシシippアカミミガメ）が増え、準絶滅危惧種に指定されているニホンイシガメなど来種に取って代わろうとしている。家庭で飼われていたものが捨てられて繁殖したり、農作物への被害も出ており、自治体は条例で捨てることを禁じたり、カメを引き取ったりする対策に乗り出した。環境省も輸入禁止などの検討を始めた。

（斎藤剛）



外来種のミドリガメ

同省などによると、ミドリガメの輸入は1950年代に始まり、多い年は100万匹近く、近年も20万匹ほどが入ってくる。体長約3〜4センチの子ガメは、ペッ

愛知学泉大の矢部隆教授（動物生態学）の話「すでに危機的な状況だ。特定外来種として指定されれば、捨てるのが違法になるので、指定の動きが出た段階で飼育中のものを慌てて野外に逃がす危険性もあるが、指定しなければ増えるばかり。本格的な駆除が必要だ」

が、担当者は一畑につながら

対策に乗り出し、これまでに約4000匹を駆除した

トシヨッパや祭りの露店で1匹500円程度で売られる。寿命は30年とも60年とも言われ、イシガメより一回り大きい30センチほどに成長。水槽で飼えなくなると野外に放す人もいる。繁殖力が強く、ここ20年ほどで急増して在来種の生息域を荒らしているとみられる。徳島県鳴門市では近年、

る川にはまだたくさんいる」と危惧。レンコン農家の酒井初江さん(63)は、「こまめに捕まえても次々と畑に入ってくる」とこぼした。自治体など引き取り

る「カメポスト」を設けるなどしたところ、ミドリガメ138匹とクサガメ7匹が集まった。60、70歳代のお年寄りが「飼っていた子供が独立したので手放したい」などと託すケースが目立ち、中には25年飼われていた30センチ近いカメもいた。

奈良市の猿沢池でも、ミドリガメが増え、イシガメはほとんど見られなくなった。佐賀市の佐賀城公園の堀では07年にハスが全滅。ミドリガメの駆除が続けたところ、3年後にようやく花が咲いたという。愛知県や佐賀県は条例で野外に放つことを禁じている。

兵庫県明石市が今年5月、市内の川で調査のためカメ3168匹を捕獲したところ、58%の1845匹がミドリガメ。江戸時代から大陸から入ってきたときと比べると、ミドリガメも1268匹おり、在来種のスッポン(30匹)やイシガメ(20匹)は完全に圧倒されていた。

市は「イシガメがいなくなってしまう」と10月16日、外来のカメを引き取る

環境省は、すでに数多く飼育されていたことから、飼育や輸入、遺棄を禁止する外来生物法の「特定外来種」には指定してこなかったが、同省野生生物課は、「大量に野外に放される」との不安が、段階的な規制を検討する」という。

レンコン被害年1500万円 徳島